

## 第161回 仏教公開講座

年間テーマ

# 生きるって ということ

サブテーマ (教区テーマ)

まなこ                      ところ  
『眼をひらく      心をひらく』

真宗大谷派岐阜教区・岐阜別院

日 時      2017年11月20日 (月) 午後6時半より

講 師      一楽 真 (いちらく まこと) 氏 (大谷大学教授)

講 題      この世と浄土

講師紹介      1957(昭和32)年、石川県小松市生まれ。  
1980年、大谷大学文学部真宗学科卒業。  
1985年、大谷大学大学院博士後期課程満期退学(真宗学専攻)。  
現在、大谷大学教授、真宗大谷派宗円寺住職。

著 書      『親鸞聖人に学ぶー真宗入門ー』(東本願寺)  
『この世を生きる念仏の教え』(東本願寺)  
『大無量寿経講義ー尊者阿難、座より起ちー』(文栄堂)  
『四十八願概説ー法蔵菩薩の願いに聞くー』(文栄堂)  
『シリーズ親鸞第5巻 親鸞の教化』(筑摩書房)  
『蓮如 日本人のこころの言葉』(創元社)、など。

### 先生からのメッセージ

お経の中で、西方の極楽世界として説かれる浄土。死後に生まれることを期待した人はたくさんいました。10円玉の図柄の平等院鳳凰堂は、藤原頼通が極楽に生まれていくことを願って建てられたものです。ところが、親鸞聖人は「浄土真宗」と呼びかけ、浄土が真の宗(よりどころ)であると述べられます。浄土を通して、この世の問題を見つめ、本当に生きることが成り立つのです。と一緒に親鸞聖人の御心を尋ねたいと思います。

いつでも・どこからでも聞ける「テレホン法話」、お電話ください。TEL058-265-0033

# MEMO

## 次回 第162回 仏教公開講座 ご案内

期 日 2017年12月20日(水) 午後2時より

講 師 高橋 法信(たかはし ほうしん)氏(大阪教区光徳寺)

講 題 日ごろのころにては往生かなうべからず

講師紹介 1952年、大阪市生まれ。大谷専修学院別科卒業。

現在、真宗大谷派光徳寺住職。同朋会館教導。推進員養成講座講師。

著 書 『私は何を求めて生きているんだろう』(奥羽教区秋田県西組仏教人間講座)

『大きい字の法話集』(東本願寺)

『浄土を本国としてこの世を生きる』(大谷婦人会)

『死んだらどうなる』(大阪教区第21組教化委員会)

メッセージ 歎異抄の「日ごろのころにては往生かなうべからず」の言葉が気になりだして久しい。和田稔先生の御教示がなかったら気になることもなかったであろう。それは「この世を離れてこの世はない。この身を離れてこの世はない」の一言だ。歎異抄後序には、煩惱具足の凡夫が火宅無常の世界をつくり、つくられた世界にまた人が育てられる。そして、身にも世にもどこにもまことはないと。ただ念仏のみぞまことであると言い切られた事を考えたい。